2010 春
SINCE 1983

テラコンソーシアム版

NETWORK TERRA

VOL.138

「人間の翼」主人公・石丸進一とバッテリーを組んだ若菜東三氏と

「平和の翼」佐賀から青森へ

青森三沢航空科学館での勇姿

1996年、映画製作ど素人の古賀先生は、映画「人間の翼」を情熱と沢山の方々のご支援で制作されました。上映は順調に進み、莫大な借金返済も終え、しばらくはおだやかに日々が続いていました。しかし「平穏」というものはそう長くは続きません。新たな挑戦への思いがむくむくと頭をもたげ、ついにある日、「零戦を復元する」と言い出されたのです。
次なる目標を見つけた古賀先生はまさに水を得た魚の様でした。

平成16年桜の花が咲く中、下関から朽ち果てた零戦の残骸が運ばれてきました。「復元したい！」と願えば、「復元します」と言ってくれる人がいる。釘１本からエッフェル塔までぶ厚い鉄板を変幻自在に操る燃える男、一級技師・馬場憲治さん。炎熱挑戦者達の「プロジェクトX　～零戦復元～」はスタートしました。

本物より、より本物。着手から1年半をかけ完成した零戦復元機。航空関係、専門家も次々に見学に訪れ、その出来栄えは彼らも呻らせました。

復元後、恒久的な一般展示が出来ない中、思いもよらぬ話が舞い込みました。「青森で零戦を展示したい」。３年前にお蔵入りしたオファーのリベンジでした。「立派な展示館で多くの人に感動を与える姿を見てみたい」との古賀先生の願いを実現するまたとないチャンスに不安より期待が膨らみます。

全長10M、両翼幅12M、重量10T。もちろん飛ばない。佐賀から青森まで３日がかりの下道運搬大作戦。大津波警報が出される３月２日、無事青森県立三沢航空科学館に到着しました。

「日本の優れた技術の集大成である零戦。多くの尊い若い命を乗せ、消えていった零戦。今ある平和の礎を零戦（復元機）を通して、より多くの人たちに伝えたい」と願っていた古賀先生の思い。10月末までの８ヶ月間、福島以北に初めてやってくる実物大零戦を、ひとりでも多くの方に観て頂ける事を願っています。

展示は、３月20日から10月末までの８ヶ月間、青森県立三沢航空科学館で公開展示されます。

人間の翼「零戦」復元実行委員会　事務局　山下春美

CONTENTS ■2010春

古賀武夫先生の言葉を辿る
「ひっとでた!!一見よ、このエネルギーー」
『最新号ご案内』　大野　博之　2

■地球市民の会

和顔愛語　佐藤　昭二　3
ミャンマー旅行記　4～5
村プロジェクト便り　6
スリランカ奨学金報告　6
協働おもしろ大百科報告　7
地域づくり全国集会in佐賀大会報告　8
行く人、来る人＆事務局近況報告　9

■夢の学校をつくる会

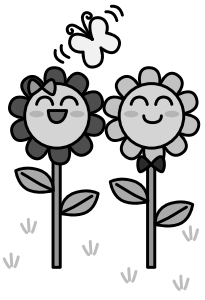
夢の学校タマテ箱　吉村　薫　10
ぼうけんタマテ箱　相良　伸武　11

■古賀英語・空手道場

巣立ちシリーズ　12

■共同執筆

協力者一覧　13
４～７月のお知らせ
スタッフのひとこと
「私を変えたこの人からのこの一言」
事務所住所　14



世界の平和と親善　地域社会の向上発展

古賀武夫先生の言葉を辿る

ひっとでた!!
―見よ、このエネルギー―

『最新号ご案内』

大野　博之

古賀武夫ブックレット第六号『ひっとでた!!―見よ、このエネルギー―』が古賀先生の三回忌に合わせて発刊いたしました。今号では、最新号ブックレットからいくつかの言葉を拾ってみたいと思います。最新号は一九七二年（古賀先生二二歳）から一九八九年古賀先生三九歳）までの会報、報告書の原稿、新聞、雑誌の記事・インタビューを編集したもので、古賀英語道場ができる（一九七八年）よりも、地球市民の会ができる（一九八三年）よりも前の古賀先生の考えが見える珍しい内容です。なぜ古賀先生はフランスに行ったの？どうして英語の勉強をしたの？空手は？など、皆さんの知りたい話題が満載です。古賀先生がまだ坊主頭になる前のフランス留学時代の写真も見ることができます。

この中から、少しご紹介をいたします。

◆弟子丸泰仙先生との対話～

弟子丸泰仙先生は古賀先生がフランスに留学中に師事したヨーロッパ禅協会会長で、佐賀県出身の偉人でした。古賀先生は南フランスの禅キャンプで弟子丸師と起居を共にされ、多くを学ばれたようでした。なぜヨーロッパでヨガ、武道、禅が受け入れられているかがその中で語られています。

特に注目すべき弟子丸師の言葉に、「・・・日本人への警鐘として、禅を日本からヨーロッパに持ち出し、日本に逆輸入すれば日本人も悟るだろう・・・」というのがあります。これは、古賀先生が地球市民の会の活動の中で、「発展途上国への協力とは、発展過剰国日本への気付きの機会を与えてくれるものだ」と話されたことと一致します。

◆空手の『センセイ』～

フランスでは空手の師範はフランス語で「センセイ」というそうです。教師というよりは師匠という意味合いが強く、敬意が日本の「先生」よりも高いようです。それも、精神的な神秘性を帯びたはるか東の国の「センセイ」であった古賀先生は、フランスでは男性にも、女性にも、モテモテだったようです。日本で空手を習っている方々は、もしかしたら、外国語を習う方々よりもより国際人に近いのかもしれません。

◆日仏文化会館設立趣意書～

一九八〇年、今から三十年前にすでに古賀先生は「世界は『国際化』から『地球化』へ向かって進行している」「異なった文化を正しく認識するには近視眼的に見るのではなく、宇宙的視野から地球を眺め同質性や異質性を深く豊かに理解する必要がある」と趣意書の中で語っていらっしゃいます。そして、国家単位で物事を考えるのではなく「我々は『何国人』というのではなく『地球人』として、この星全体の利益、繁栄を考えていかなければならなくなります」という言葉は、その後の地球市民の会への萌芽がすでに芽生え始めていたのでしょう。ところで、何故フランスなのか、という理由も説明されています。答えは実際に読んでお探しください。

◆日本と佐賀の眠りを破る～

日本―世界の関係性は佐賀―日本の関係性に非常に似通っている。それは、日本で世界といえば（三十年前）アメリカを指していて、アメリカに憧れ、アメリカを欲している。また、日本がアメリカを追従していたように佐賀は日本の中で東京を目指している、ということが似ているというのです。アメリカ以外の世界の国々や東京以外の日本の地域に窓を開くことが必要だと主張されていました。

◆古賀英語道場について～

古賀先生が経営していた英語学校は何故『塾』ではなく『道場』であるのか皆さんも不思議に思われていたかもしれません。その理由をご自身の文章で説明されています。現在の塾は中学・高校・大学の受験テクニックを教えるところとなり、人間教育の場になっていない。このような塾と一線を画し、「道場」は学びあうなかで、「個人として、また社会として、最高、最良の生き方を模索する場所」だと定義し、「ここは、生徒と私たちとが、共に道を求める『道場』なのです。私たちにとって、この仕事は命がけの仕事です」と決意を述べられています。

古賀先生はお兄さんの影響で小学校から英語の勉強をしていたそうですが、ローマ字を習った時にそれを英語だと思って読んでもらったら聞こえてくるのは日本語でがっかりしたそうです。その「がっかり」が英語への興味をもっと増したのでしょう。

◆ブックレット『ひっとでた!!―見よ、このエネルギー―』について～

「ひっとでた」とは、佐賀弁で「飛び出した、突出した」という意味です。くしゃみなどをして思わず鼻水が「ひっとでた」と使います。思いもかけず、とんでもないものが、飛び出てくる時に使うようです。古賀先生が好んで使われていたのは、『出るくいは打たれるが、出過ぎれば打たれない』という文脈の中で、村社会に安穏とする地方都市から世界へ向けて時代のうたた寝の夢を破るべく飛び出しているという気概をこめていたのだと思います。編集責任者の土井美智子さんは「ひっとでる」頃の古賀先生が大好きで、そのまま長いお付き合いとなりました。土井さんには古賀先生の「ひっとでた」エネルギーが時間を超え影響を及ぼし、今回の発刊となったのではないかと考えています。まさか、土井さんの枕元に古賀先生が「作らんか～」と言いにでてきた訳じゃ、・・・ありそうだなぁ？

～このブックレットについて～

このブックレットの中には、「地球市民の会設立趣意書」「新　日本人文化論」「地球市民への道」「むらづくり　まちづくりのこころがまえ」「国際人＝大ブロシキ人間」「ボランティアの本筋」など、古賀先生若かりし日々のエネルギーに満ち満ちた文章に溢れています。このブックレットをお読みになりたい方は送料として地球市民の会に240円分の切手をお送りいただければ、折り返し郵送いたします。お値段は読んで後のお気持ちを支援金で頂戴できれば幸いです。

和顔愛語

佐 藤 昭 二

万物に中心あり

おおよそこの世に存在するものにおいて、中心のないものはない。

それは物質的なものであろうと無かろうと、全てにおいてである。その中心の核となるものの性質、性格が形となって現れてくるのである。植物に見る草花が、それを教えている。ひまわりはどこまでもひまわりであり、桜はどこまでも桜である。桜が途中で梅になることはないし、大根が白菜に変わることはない。

その中心に定められた性質、性格を精一杯生きて形を作っているのである。これは植物・動物に関わらず、地球上の生きとして生ける者に与えられた宿命である。

すなわち神（大自然）が与えた生命である。この中で唯一人間だけはこの宿命に逆らう方向に進もうとしている。遺伝子操作である。

現在（いま）の都合、不都合だけでその都度生き方を変えていく人間界は、早晩この恐ろしさを知らされるであろう。目先の好都合は時を得る随い、往々にして不都合な状態になることを忘れてはならない。

本文の主願である‘中心’とは、我々地球市民の会においても言えることである。

この会の‘中心’は何であるかを常に心に留めておく必要がある。

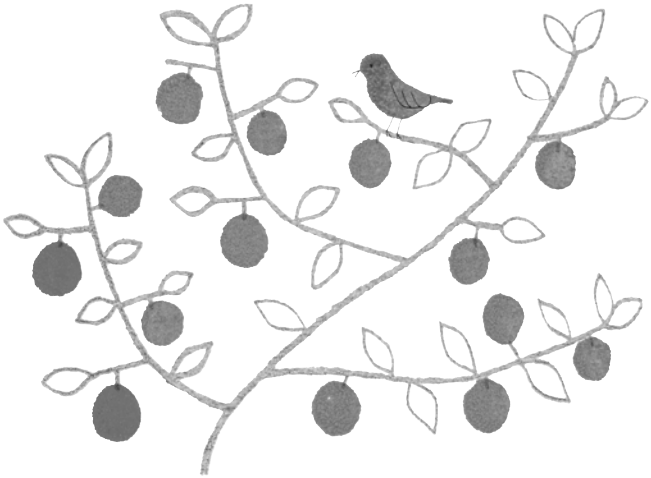
目先の好都合が‘中心’に入りこんだとき、その性質、性格が形になって現れてくる。

前会長故古賀武夫氏と、よく話したことがある。地球市民の会の最終目的は何か？「地球市民の会が必要なくなる時が来ることだ。」という結論であったのを覚えている。従って設立の時のこころを、心として私達は進まなければならない。その志を忘れたとき、地球市民の会が必要なくなる前に、必要とされない会になってしまうであろう。

もちろん私達会員には、会の存続だけを目的にしている人は１人もいない。

今、必要とされているのは地球市民の会を通して、子どもや孫に伝える精神の在り方であると、私は思う。

それは私達一人ひとりが如何に‘生活は小さく、志は高く’の生き方を‘中心’に据え実践するかであると思う。



ミャンマー旅行記

今回は、昨年12月に行われたミャンマーツアーの様子を、参加できなかったあなたのために！ミャンマー担当・新人フジセがお届けしま～す☆
とはいっても、実際にお届けしてくれるのは、ツアーにご参加された2名の方。ミャンマーの京都といえるバガンやTPAの活動地周辺のインレー湖、パゴダを訪れ、それはステキな8日間を過ごせたようです。ヤンマーいや、ミャンマー（すいません、新人なもので）を満喫したお二人に旅行記を書いていただきましたので、掲載させていただきます。
これを読めば、あなたもきっとミャンマーに行きたくなる！？　それでは、お楽しみください！

平野さんは、出発日から帰国日までの日記を届けてくださいました。
誌面の都合上編集させていただいたのが残念ですが、ミャンマーの魅力が存分に伝わってきますよ。

ミャンマーレポート‘徒然なるままに’

平野　宗宏

2009年12月14日。待ちに待ったミャンマー旅行幕開け。2005年に初めてミャンマーの地に降り立って以来、何度も来たいなと思う国となった。
福岡を出発して6時間、ミャンマーに到着した時には午後21時を回っていた。日本の寒さとは打って変わって、ムワッとくる暑さには冷たいホップのきいたミャンマービールの爽やかな咽喉が何とも言えない。同行者3人とミャンマービールで今回の旅の無事を祈り、祝杯を挙げた。

（癒しのミャンマーの大自然）
今回の旅で、心を穏やかにしてくれる自然に出会った。大都市ヤンゴンを少し外れると、エーヤワディー川と赤と緑の大地が広がっている。船で川くだりをした時、沈む夕日が川面に黄金色に映え、心を打たれたのを思い出す。インレー湖では、漁夫が漁をするのを横目で眺めながら、夕日が沈むのを山々が包み、暫く桃源郷に生きているような感傷に浸ることができた。

（仏教の国としての顔）
ミャンマーには、行く処行く処に仏教寺院がある。国民の８５％が、熱心に仏教を信仰しており、争いを好まない心穏やかな人達だ。2003年9月に外国人旅行者に開放されたカックーパゴダ。寺院の狭い敷地内には、ビルマ様式・シャン様式・パオ様式のパゴダ（仏塔）が混在し、びっしりと立ち並んでおり、豚が『ここ掘れ、ぶー、ぶー。ここ掘れ、ぶー、ぶー。』と鳴いた為に掘り起こされたという言い伝えがある。世界最貧国とのレッテルを貼られながら、この文化遺産を維持し保存しているミャンマーの人々の崇高さに、私は敬服した。

（現地の料理で飲む、現地の酒は美味しい）
味が濃くスパイスの効いたミャンマー料理。道中ミャンマー料理のお供にビールを堪能した私は、帰国前には結構太ってしまった。地球市民の会の農業研修センター職員が作ってくれた豆のスープに魚のフライ、インディカ米とカレーのルー。露店で食べた麺と野菜とチーズを混ぜ合わせたトーフーヌウェ。これは実に美味い。タウンジーのお勧め料理とのこと。新たなる食文化に感謝する毎日だった。

（ミャンマーの人々の熱意）
ミャンマーの人々の力強く協力して生きている姿に多くの場面で触れた。孤児を寄宿させ、小中学校で教育を受けさせているマインタク孤児院。子ども達は、明るく、目が輝いており、礼儀正しく、素直だ。この子達の活躍するミャンマーの将来は明るいだろう。子ども達に将来を託し、教育に最大の力を注ぐ、ミャンマーの人々の熱意は、心にじんとくるものがあった。農業技術の習得と勉学に励む子ども達が共同生活をするタンボジセンター（地球市民の会の活動地）。一歩一歩循環型の地域開発が進んでいると認識した。立派な地域のリーダーとなるよう村から期待されていると聞き、各々の輝かしい将来を実現できるように頑張ってほしいと激励を送った。パーヌエ村では、小学校を改修するため、地区で建設委員会を作り、村人が一致団結し頑張っているという話を聞き、私も学校改修資金を寄付した。

（最後に）
人はミャンマーを「軍事政権だから、どうのこうの…」「アウンサン・スーチーさんを何十年も軟禁するような非民主国家だの…」「世界最貧国だの‥」と否定的に捉え、‘触らぬ神に祟り無し’とばかり遠ざけているような感じがする。
しかし、一度訪ねてみると、この国への自分の情報不足と知識不足を痛感する。
この国に来れば、良い意味でのハングリー精神を呼び起こすことが出来る。更に、将来に夢を抱く、仕事真面目で、勉強熱心な目の澄んだ子ども達に会うことが出来る。大人は教育に熱心。皆がこよなく日本の中古車を愛し、4、50年前の車を大事に、定員オーバーなんて何するものぞと、超満員で乗っている。限りある資源を大切に、勿体無い精神の未だ生きている国なのだ。
そして、何はともあれ、この国の人とは互いに理解し、手を携え、人類の発展のために、共に努力し、助け合い、生きていけそうな気がする。そんな肯定的な情報が増え、理解が深まってくる国なのです。

つづいては、ツアー後、ミャンマーに一人残り一週間旅を続けられた唐澤さんから届いた旅行記。

ミャンマーをさすらう

唐澤　利夫

お隣のタイまでは何回も来ているのに、ミャンマー政府から１つ２つ条件をつけられただけで、何となく鬱陶しいなぁと思い二の足を踏んでいたが、今回のツアーがある面倒な事は事務局が全部やってくれると単純に思い、申込をした。しかし、今回は自分でビザを申請せよと言う、まあ難しい事はないが、大使館が手続きをどれほどテキパキやってくれるかが分からない。が結果は何日かのゆとりを持ってビザは手元に届いた。

それでも“おんぶにだっこ”の贅沢旅行で企画も素晴らしく、存分に堪能させてもらった。一週間が過ぎ、楽しい旅を作ってくださったメンバーの皆さんも日本に帰っていった。これから１週間、今度は自分１人の旅になる。どこの国へ行っても、私は随分無茶な旅をする。英語なんてほとんどしゃべれないけど行きたい、その一念だけでどこでものこのこ出掛けてゆく。今回もヤンゴンの空港で仲間を笑顔で見送ったが、心の中は不安でパンパンになっていた。

手に入れるのがややこしいと言われていたヤンゴン⇔マンダレー間の列車のチケットが手に入ったのはうれしい。同じ目的地に行くのに私は飛行機やバスよりも、船や列車が好きである。

ちょうどお昼頃、マンダレー行きは発車した。青と白のツートンカラーに細くて赤いラインがスーと入っていてなかなか美しい。私が乗ったのはアッパークラスのスリーパー。片道40ドル。ベッドは下段でエアコンなし。窓を開け放てば気持ちの良い風が入ってくるし、ビールもうまい。傍らにはヤンゴンで買い込んできた有名なマンダレーラムも一本あるし、仲間が置いていってくれたおつまみも沢山あって、何の不満もない。列車は田園の中を走っているが、もう稲の刈り取りはほとんど終わったみたいで、のんびりしている。草を食べている牛も多い。聞けばこの国では、お米を１回作れば全国民の分は足りる。２期作、３期作の分は輸出に回すそうである。

金銭的にはゆとりはないかもしれないが、穀物、野菜、魚介類、果物と、つまり食物が存分に潤っていると、悠場迫らずの生き方になるらしい。

夕闇が近づくと、気温も下がってくる。どんどん寒くなってラムのラッパ飲みくらいでは追いつかなくなってきた。寒さに備え持ってきたヤッケを着てズボンも２枚重ね履き、靴下も履いた。それでもどうやら寝込んだらしい午前４時、ガタンというショックとガヤガヤとした人の話し声で目が覚めた。マンダレーに着いたらしい。

やっと着いたか。大勢の客が改札口へゾロゾロ歩いて行くが、私は構内食堂へ向かった。暖かいものが一杯飲みたいし、到着が早朝なので時間をつぶす必要もある。１時間ほど粘ってから、ゆっくりと改札口を抜けた。ホテルの方角は大体の見当をつけてある。でも暗い。車のヘッドライトのおかげで街の様子がそこそこ分かる程度である。30分ほど歩いた。地図での目測では20分くらいと思われた。街の中心部へ向っているはずなのに目立ったビルもない。間違った！

引き返そうと思って踵を返したとたんに、ドボッと下水に落っこちた。この国の歩道の半分は下水溝になっていて、悪い事にところどころフタがない。何ちゅうこっちゃ。憧れのマンダレーにやって来たのに、朝早くからドベドベの片足を引きずりながら２枚はいたままのズボンも靴下も人には見せられない状態で歩かなければならんとは。

マンダレー市役所にお願い。どうか歩道の下水溝にはフタをして下さい。

結局、開店したばかりの食堂にお願いをして裏の洗い場を貸してもらい、足を洗うことが出来た。せめてものお礼に、第１号の客としてうどんを食った。そしてもう１杯分のお金も置いたが受け取らなかった。

やはりマンダレーの人はやさしいと思う。何と言ったって、目が合えば必ず微笑むのだ。断る場面があっても嫌な顔もしないのだ。分からなければとことん教えてくれる。

楽しい3日間の滞在は終わり、帰路は夜行バスにした。真夜中の人気もない平原を走っていたバスがパンクした。修理が出来るまでバスから降りて空を眺めて驚いた。小さな星まで良く見える満天の夜空であった。

うわさと予想と現実との違い。旅の１番面白い場面に出会ったような気がする。

いかがでしたでしょうか。３月頭には、スタディーツアーをはじめ、JAさが様の視察ツアー、TPAぎふのツアーの３つが実施されました。スタディーツアーに参加した佐賀大学生の声も届いております！

今年も私たちとミャンマーが共に学び合える活動を目指します！
みなさまも魅力溢れる国ミャンマーに行ってみませんか？

ミャンマー体験記

ミャンマーで初めに感じたこと、それは人々に悲壮感が感じられないということでした。空港で働く人には笑顔があり、貧しさが感じられなかったのです。私には新鮮な驚きでした。なぜなら、ミャンマーは最貧国の１つと見なされるほど経済的に困窮している国だからです。彼らにあって日本人にないもの。そのコントラストに大きな衝撃を受けました。

佐賀大学３年　中川　知行さん

～村プロジェクト活動だより～

☆村プロとは？☆
→　中山間地において、自ら飛び込み、地域づくりのお手伝いを行うことです。
その時に、当会が海外で実践し、得てきた知識や経験等を活用する、中山間地の元気応援事業です。

3月13日（土）14日（日）に「地域づくりステップアップセミナー」をフォレスタ富士で行いました」

講師に国内外で地域づくりにおいて活躍されている「一般社団法人あいあいネット」の長畑誠氏をお招きしました。
参加者は13、14日とも15名ずつ。（うち地元の方々は4～5名程度）
「ないものを探すことでなく地域にあるもの探し」への意識を変えていこう！というのがねらいです。ずっと同じ地域に住んでいると、地域にあるものが当たり前になりすぎて見えにくくなってきます。そうなると、「ないもの」を求め、外に支援や援助を求めてしまいがちです。
そうではなく、地域の「あるもの」を探し、再認識したうえで、課題解決のための方法を考えよう！というのが目的です。

（市川集落散策の様子）

（みんなで市川集落のマップ作り）

13日（土）

講義とフィールドワークを行いました。市川集落の水田強さんのご案内で、お住まいの集落を散策しました。地元の人から見れば、当たり前の川、山、建造物も、私たち外のものとしては、とても新鮮なものでした。
水田強さんのお話を聞き、参加者から「こがんよか集落の近くにあったとね~！」、「歴史や自然、人は繋がりのある！」などの気づきや感想がありました。

14日（日）

参加者の皆さんは、2グループに分かれ、歩いた場所や聞いた話を思い出し、話し合いながら市川集落のマップ作りを行いました。
「水田さんこがんこと言われてたよね？」、「ここでこがん話しばしたね。」などなど実に楽しくマップ作りができました。
「市川は川（水）を中心に栄えてきたのがよく分かる。今後もこの川のよさを活かし、地域づくりをしていけばどうか？」などの話も出ていました。
また、今回のフィールドワークを通して地元富士町からの参加者の方から「是非、自分の住んでいる集落でフィールドワークを行い、みんなで集落のことを考え、地域を活性化していきたい！」と、嬉しい感想も聞くことができました。

「富士町の方々と交流会を行いました！」

3月11日（木）に富士町の千曲荘で地元の方々と交流会がありました。我ら地球市民の会からは山下理事長、土井理事、大野事務局長はじめ、スタッフ4名が参加しました。
到着して部屋に入ると・・・なんと地元の人は15名以上！（当初の予定は、地球市民の会の参加者人数と同じ7～8名程度）地元の方々の人数にスタッフは当初圧倒されていました。
しかし、交流会が始まりお酒も進んでいくと、お互いの緊張もほぐれ、大変賑わい盛り上がりました。地元の方々の地元に対する想いは強く、「将来の子どもたちのために今のうちから何か活動をしたい！」、「農業で成功例をだし、子どもに農業でも生活ができるというところを見せたい!」など、熱い想いをもった人たちのお話を聞くことができ大変勉強になりました！ご参加いただいた方々、大変ありがとうございました！

スリランカ

奨学金れぽーと

本年で14年目を迎えるシショダヤ奨学金。12月、2008年より支援を受けていた子ども達が卒業を迎えた。卒業後の子ども達の今は・・・？70名を超える子ども達が、医者・教師・政府役人としてスリランカ社会で活躍している。現地窓口のニシャンタ氏から嬉しいお便りが届いた。

こんにちは。今日は、日本の皆さんに伝えたいニュースがあります☆
1997年、シショダヤ第1号奨学生のニシャッド君。彼は、奨学金を受けながら、来日してホームステイという貴重な体験もしました。高校卒業後、アメリカのスタンフォード大学へ留学しました。そして、この度、なんと南極大陸の研究チームに選ばれました。
彼がこのように世界の舞台へ立つ人材に育ったのは、日本の方々に支えて頂いたこと、日本で体験したことが、胸に熱く残っていたからだと思います。
『一方的に与えるのではなく、お互い対等の関係、協力交流することにより、相互理解し、気付きや学びがある。そんな関係を世界中に築いていきたい!!』
この想いを一緒に形にしていく仲間が増えていることを実感しています。
あなた方のサポートに感謝すると共に、14年間続いてきたこの関係をこれからも大切にしていきたいです。

＊2010年度は、3ヶ月に1度『シショダヤ通信』の発行を予定しています。現在、支援して頂いている子ども達の様子をはじめ、様々な立場で働いている卒業生からスリランカをレポートしてもらうなど、内容を充実したものにしていきたいと思います。

本年度の奨学生募集を開始します！今年も５名の奨学生のプロフィールが届きました。
『子ども達の才能に輝きを持たせるため』皆さんの温かいご支援をお願いいたします。

協働おもしろ大百科 全4回

公演無事終了!!

11月24日（火）、1月17日（日）、24日（日）、2月5日（金）の全4回、地球市民の会は、佐賀市役所市民活動推進課、シアターEDVの青柳達也氏（古賀英語道場）、劇団ZIシアターの劇団員の皆さんとの協働によって、「協働おもしろ大百科」というイベントが行われました。佐賀市が推進している「協働」。この分かっているようで分からない言葉を、にわか風寸劇を用いて分かりやすく、尚且つおもしろく伝えるという取り組みでした。

地球市民の会も、もっと地域に根付いた団体として、他の団体の方々と一緒に活動をおこない、佐賀を元気にしたいという想いから、この事業にかかわらせてもらうことになりました。

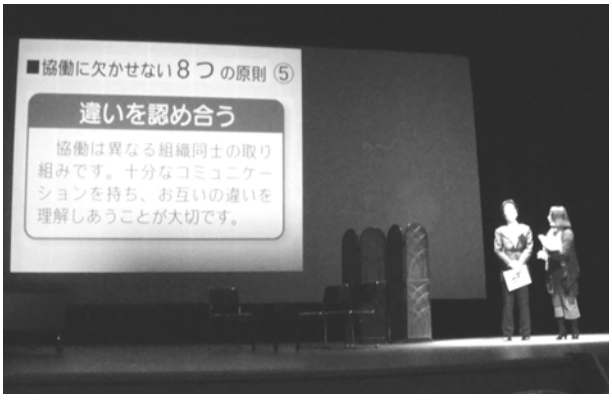
全４公演行い、各回20〜110人ぐらいのご来場がありました。

1 「協働」ってなんだろう？協働って必要なの？知っているようで、よく分からない言葉。にわか風寸劇を用いて、協働を全く知らない人も、疑問に思っていた人におもしろおかしく学んでいただきました。すべて佐賀弁を使ってのプログラムです。

2 演劇は全部が４シーンで組み込まれ、１シーンごとに、ナレーション・劇・説明に別れています。

アンケートでは「説明の部分が長い」、「分かりにくい！」など、ご意見・アドバイス等が一番多かったところでした。

そこで、説明を図式化したり、最初１人でおこなっていた説明を２人で漫才風に伝えていく方向に変えたりと、修正を重ねた結果、１回目から観覧されてきた人の中には「最初のうちはどうなるかと思っていたけど、回を重ねるごとによくなっていった」という感想もありました。



3 にわかの演劇の中に、「協働とは生ハムメロンたい！！」という言葉がでてきました。ん？？どういう意味？？と思われるかもしれませんが、その意味は・・・

→生ハムの塩加減とメロンの甘さが組み合わさることで、通常であれば、おかずやデザートあったものが、ワインのお供に様変わりするという。お互いの特性を用いることで、「１＋１＝２以上のものがうまれる！」ということです。協働を食べ物に例え、大変分かりやすく伝えるものでした。

みなさんも、協働って何？と、周りに疑問を持っている方がいらっしゃれば、「協働は生ハムメロンたい！！」と説明されてはいかかでしょうか？

4 出演者の方々は、何回も何回も練習を行い、たくさんの方々にアドバイスをいただきながら、修正に修正を重ね、大変反響があるいい演劇が出来あがりました。

また、ご来場の方の中には「にわか風寸劇を私の町でもやりたい！」と言われ、撮った動画を購入したいというご連絡もいただきました。

第27回地域づくり団体全国研修交流会佐賀大会で分科会を担当しました!!

２月５日(金)～６日(土)の２日間。全国で地域づくり実践者達が佐賀の地に集まりました。当会は、第１分科会を担当。北は青森から、南は鹿児島まで。『志士よ集え、ここから世界の未来が開く～日本赤十字は佐賀から始まった～』と題して、明治維新の賢人の熱き思いに触れ、世界の未来を想い、熱き思いのたけを語れる分科会となりました。

1日目

……佐野常民記念館……
みんなの力で地域づくり

子ども達による館内案内や体験型学習等の取組みを行い、佐野常民のボランティア精神を伝えていく活動を行っている。大人から子どもまで地元川副町の人たちが、記念館を通して地域づくりに参加☆

……福岡博先生の講演……
地域を知り、地域を愛する

佐賀の郷土史家の福岡博先生にお話を伺った。佐賀の七賢人を中心に、世界で活躍した人々の生き様に触れた。地域を知り、語り伝えていくことの大切さを感じた。

……懇親会＆夜鍋談義……
熱く語り、志を共にする

旅館あけぼのにて、佐賀の郷土料理とご当地佐賀の美味しい日本酒を囲んで地域づくりへの想いを語りあった。それぞれの地域づくり経験が語られ、エネルギー補給できる時間となった。

地域づくりについて熱～く語る

……佐賀地場企業のご協力……
地域づくりに企業も貢献

現在、佐賀から全国へと活躍の輪を広げている企業を紹介。ウォークラリーのクイズでは、『北島』『九州グリコ』『リコー九州』に関連して出題。全問正解者には、各社からご協賛頂いた丸房露やお菓子詰め合わせ、時計をお土産として贈呈。『地域を元気付けるために企業が頑張っているのは心強いわね』と参加者からの声があがった。

2日目

佐賀城下ウォークラリー＆クイズラリー

ルート
あけぼの旅館⇒
八幡神社⇒
佐賀神社⇒
大隈重信記念館⇒
佐賀城本丸歴史館

佐賀から世界へと旅立った偉人の足跡を辿りながら、各所にまつわる話を聞き、クイズを出題。佐賀のような小さな街にも、全国、そして世界へ発信していくエネルギーを持っていることを紹介した。特に、各所でのボランティアさんの力が輝いた。『佐賀の持っている良さを通して、地域を元気にしていきたい』そんな想いが伝わってくる時となった。

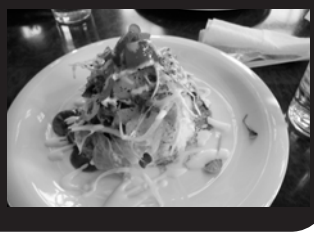
真剣な顔で答えを考える参加者

佐賀の街を練り歩き

八幡神社

……ご当地ランチ……
佐賀の味を堪能

佐賀歴史民俗博物館内のレストラン浪漫座にてシシリアンライスを食べた。ご飯に盛られた生野菜と牛肉のハーモニー。『面白い味!!』と評判でした☆



参加者の声

佐賀とパッとイメージが湧かなかったけど、深い歴史があり、多く偉人を輩出していることを知り驚いた。そして、佐賀にあるものを、全国へと発信したいと元気に活動されている方々が多くおり、そういう方達のエネルギーが地域づくりの原動力になっていくのではと感じました。とても勉強になりました。

地球市民の会
事務局

行く人、来る人

着任

鈴木亜香里

こんにちは。ミャンマー調整員としてＴＰＡにやってきました鈴木亜香里です。兵庫県生まれ、東京育ちの25歳。戸田さん、藤瀬さんと同い年で仲良くやっています！現在はミャンマーに行く前の準備として、佐賀の本部で会計の勉強をしたり、各種イベントの準備をしたりしています。ミャンマーに行く前に、ＴＰＡの理念や考え方、本部の仕事内容を理解し、メンバーとの絆を深めておこう、という期間です。

私の経歴を簡単にご紹介します。東京外国語大学でビルマ語（ミャンマー語）を専攻。国際ボランティアサークルに所属し、ミャンマーのヤカイン州にある孤児院の支援をおこなっていました。「将来は国際協力の仕事をしたいなぁ」と思い始めたのはこの頃から。その後、大学を１年休学してミャンマーに留学し、ミャンマー語の読み書きおしゃべりができるようになりました！

卒業後は、東京で経営コンサルティング会社に就職し、毎日朝９時から夜11時までバリバリと働く日々でした。忙しい毎日だったけれど、「いずれはＮＰＯで仕事がしたい！」という想いは忘れずにチャンスを狙い続け、今回ご縁があってＴＰＡにやってきたわけです。

前職をやめて、何の所縁もない佐賀までやってくるというのは、私にとって大きな決断でした。会社の上司からは猛反対され、私の心は揺れ動きます。「地球市民の会って、怪しい団体じゃないのかな？」「知らない土地に行って、１人で暮らしていけるかな？」「私はこのまま社会からドロップアウトしていくのではなかろうか・・・」。迷いに迷った結果、「えーい！迷っても仕方がない。私はミャンマーに行きたい！それでいいじゃないか」と、直感で決めてしまいました。私の直感は正しかったと思いますか？今のところは、「良かったなぁ～」と思うことにしています（笑）。

ＴＰＡに来て驚いたのは、応援してくださる方々が多いことです。会員さんや里親さんはもちろん、毎日のように来てくださるボランティアさん、切手や書き損じ葉書を持ってきてくださる方、イベントの手伝いをしてくださる方・・・。たくさんの方々に支えられて、ＴＰＡは活動できているんだなぁと思います。特に、長く応援してくださっている会員さんのお話を聞くことは、大変勉強になります。私たち若手職員は、「古賀武夫先生を直接知らない世代」。昔の古賀先生のお話や応援してくださる皆さんの想いをお聞きして、それをカタチにしていけるような仕事をしたいなぁと思います。これからも、応援よろしくお願いします！

インターン

山際　純忠

佐賀大学文化教育学部、国際文化課程４年の山際です。１月に佐賀大学にて国際協力映画『アリ地獄のような街』の上映講演会の企画運営を代表として勤めさせて頂いていましたが、途上国の現状を知れば知るほど国際貢献ができる仕事への関心は日々大きくなり、今回縁あってインターン生としてＴＰＡのみなさんとお仕事をさせて頂いています。

国際協力ＮＧＯの日本の事務所というと、お金の面でとにかく現地のサポートに徹するという所もあるのかと思いますが、その点ＴＰＡは佐賀を中心とした地域のみなさんとの交流を大切にしているのがとても魅力的な特徴だと、傍から見る自分としては感じています。佐賀市内の村落開発支援であったり、里親さんたちとの交流や手紙のやりとりを通して信頼関係を築いていくこともまた、結局は海外での協力活動に繋がる大切な心構えを学ばせてくれます。

この会報が出る頃にはもう大学を卒業して企業での仕事を始めているかと思いますが、どんな仕事を通しても社会貢献への意識を忘れずに、常に勉強を続けていきたいなと思っています。今後企業のパートナーとして、サポーターとして、はたまたＴＰＡスタッフとして関わっていけるご縁がありましたら、宜しくお願いいたします。

インターン

高祖　広季

はじめまして。３月からインターン生としてお世話になっている高祖広季と申します。出身は佐賀県の川副町です。高校卒業後、福岡大学に入学しましたが、転学して現在は佐賀大学農学部に在学しています。

2009年９月にスタディーツアーでミャンマーに行き、そのときに地球市民の会の活動を知りました。将来は国際協力に携わりたいという想いがあったので、地球市民の会の活動をぜひ体験させていただきたいと思い、インターンシップという形で受け入れてもらうことになりました。知識も経験もありませんが、毎日精一杯頑張って少しでも多くのことを吸収したいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

事務局の近況報告（髙柳編）

TPAの大黒柱でもあった畑さんが1月に退職され、2月から不安でいっぱいの事務局でした。しかし、泣き言ばかりは言ってはいられません。ミャンマー調整員で派遣予定のニュースタッフ鈴木さんも研修にこられたので、若手4人組（戸田・岩永・藤瀬）がスクラムを組んでお互いに足りない所を補い合いながら連携プレーでなんとか頑張っています。そんな助け合う微笑ましい姿を見ていると先輩（年配？！）の私もパワーをもらい若返っていくような気がします。

また若いスタッフが増えると、相乗効果なのか・・今までより若者が集まってきてくれているように感じます。例えば、大学生のインターンやボランティアの方々がちょくちょく手伝いに来てくださったり、その方がお友達を連れて来てくださったりと徐々にボランティアの輪が広がりつつあるようです。マンパワーがどうしても足りないNPO団体においてはたいへん有難い限りです。その点からみれば、理想の「地球市民の会」に近づいてきているのではないでしょうか？ますます新しい風を吹き込んで、ＴＰＡ事務所も上昇気流に乗っていって欲しいものです。しかし、何せ若手4人組ですので、至らないところも多々あると思います。個性派揃いの心優しき4人に、みなさんからの叱咤激励のお言葉をいただければ有難いです。お茶を片手にお待ちしております。どうぞ、今年度も新生ＴＰＡを暖かく見守ってください。

日々の活動はブログでご紹介いたしております。是非ご覧ください。 **http://ameblo.jp/tpa-office/**

武ちゃん語録 いつの世にも大切なことは、時の流れに従いつつも、深み（本質）を忘れぬことである。

・・・そして　今ここに

夢の学校タマテ箱担当　**吉村　薫**

私が何故夢の学校にいるのかを語るには20数年も前に遡り、多くの事を話さなければなりません。

私には３人の息子がいます。その長男である息子がある日、なにを思ったのか「僕、空手と英語を習いたい」と・・・
この一言が、夢の学校の創始者であり、当時の古賀道場、道場主古賀武夫先生との出会いとなるのです。
一見風変わり、やっぱり風変わりな古賀先生は「ここは、塾じゃなか。道場だ。」とよくおっしゃっていました。
「ここは、人が育つ場所だ。」と・・・
当時の道場には英語と空手で世界に飛躍というキャッチフレーズがありました。
何とも奇妙な組み合わせです。
英語はともかく、空手で世界に飛躍するなどどうやって飛躍するのか疑問でしたが息子が選んだ組み合わせにピッタリと軽い気持ちで門をくぐりました。
長男に続き、次男、三男も古賀道場に通うことになりました。
空手と言うと瓦割りというイメージがありますが、「瓦は屋根にのせるものだ。」とは古賀先生の弁。
その空手は日本の文化を伝える手段ともなりますが、自分で考え行動すること、心を養うこと、続けることの大切さを学ぶことが世界の国々のことを考え、社会に貢献できる人になりうることに繋がることだと教えて頂いたようです。
また、通う中で留学という機会にも恵まれ、次男はメキシコに、三男も今ノルウェーに留学をしています。
自分の気持ちを伝えることや自分の気持ちを体で表現することを学んだことに気づき、なにより自分の国日本を知り、世界の国の人達と友達になることが、世界平和に繋がることだと古賀先生の教えを実感しているようです。

英語も、空手も技術を習得させるところではなく、人を育てるところだと言われた所以だと思います。
ここに縁あって20数年。こんなに続いたのも塾じゃなく道場だったことに他なりません。
子ども達が空手と英語を通じて学んだ事、身につけた事などの一つ一つが私にとっても考えさせられ、気づかされ、生きていくことの意味を教えていただいたと今、強く感じます。

古賀武夫先生が夢の学校設立へ抱かれた思いには足元にも及ばないかもしれませんが、少しでもその一端を担い子ども達に繋いでゆくことができればと今、ここに立っている私です。

夢の学校をつくる会　１～３月のご協賛者

多良淳二様、夢の学校＆フレンズパーティー実行委員会様、中溝澄子様、森永勝馬様、野田義文様、池田剛様

枠を広げよう！

ぼうけんタマテ箱担当　のぶ（相良伸武）

まだ日が出て間もない頃、目が覚め外に出た。山の空気はひんやりと心地良く、かすかな風の音しか聞こえない静かな朝だ。いきなり目の前に真っ白い光が広がった。山小屋を囲む蕎麦の花だ。一面の白い絨毯、感動して涙がこぼれそうになった。

自然体験活動（農体験を含める）の担当となりもうすぐ１年、これまで子ども達に本物の自然を感じてほしいと思って活動を続けてきた。始まりは５年前の夏タマテ箱（夏タマ）であった。夏タマでは、子ども達は、佐賀市富士町を舞台に、国内外いろいろな人達と出会い、様々な文化に触れる。また、地元の人達やおかしら（各分野の専門家）など、熱く、心優しい人達に支えられ、自然の中で遊び、自然の不思議を体験する。そして何より、異年齢の仲間達との共同生活。新しい仲間との出会いに刺激を受け、自分を見つめ直す日々。楽しいが、我慢することもたくさんある中で、子ども達は自分の殻を破っていく。毎年、最後のお別れに涙する子ども達を見ると、彼らの大きな成長を感じることができる。

最近、屋久島と五ヶ瀬に行ったが、どちらも雄大な自然と美しい景観に圧倒され、感動しっぱなしだった。しかし、自然の感動は遠くまで出かけなければ体験できないものではない。佐賀の自然にもたくさんの驚きや感動がある。山に一歩足を踏み入れれば、草いちごが一面に広がる。夏にはカブトムシやクワガタに出会う機会も多い。川遊びは夏の定番だが、佐賀平野は淡水魚の種類が全国有数であることをご存知であろうか。子ども達は、自然と遊ぶことでたくましさを身につけ、驚きや感動によって好奇心を大きく膨らませていくのだ。

人はそれまでの出会いや経験（体験）によって、それぞれの生き方や考え方を築き上げていくものだ。そして、その中で物事を考え行動する。それを自分の枠と呼ぶとすれば、
枠は大きいほうが良いと私は思う。自分の枠に囚われるのでなく、枠を広げようとする人を育てていきたい。

夢!情熱!感動!

OB, OG, 卒業生は宝物です vol.9

古賀道場「巣立ちシリーズ」第1弾

春は新しいスタートの季節です。英語に何年も通ってくれた高校３年生の二人は、これから世界を舞台に羽ばたけるように巣立っていきます。

ホームページ：http://kogadojo.com

古川あおい （東京大学文科一類 合格）

古賀道場で英語を習いはじめたのは中学一年生のとき。まだ基本的な文法さえよくわからない段階で、いきなり全部英語の授業を受けるのは初めは辛いものでした。

それが、しばらくすると「あ、とにかく伝えようと頑張ればなんとかなるんだな」と思えるようになりました。

基本的な単語や文法を身につけた後、英語を「使う」ために必要なのはとにかく話すことだと思います。古賀道場では英語を使うことを前提にいろんな遊びや勉強をしましたし、古賀道場の生徒や関係者は当たり前のように国際交流をしているので、英語を話すということが極めて自然に感じられました。

今まであまり道場で学んだことを活かす機会がありませんでしたが、大学生になるのを機にいろいろな場所に飛び出して「なんとかなる」と思いながらいろいろな国の人々と交流したいと思います。

福島奈七子 （同志社大学法学部法律学科 合格）

小学三年生の五月に来てから約十年、道場にはお世話になりました。学校で「発音が良いね」と言われたり、テストで良い点が取れたりしたのは道場で英語を習ったから。しかし、それだけなら他のところでもできます。私が十年間も通えたのは、道場が居心地良かったからだと思います。もちろん、よそではしないような英語劇、スピーチ、カルタ大会はとてもいい経験になります。実際、とても楽しいです。燃えます。他にも、道場の企画で行ったホームステイ、クリスマスにやった「いのちのまつり」のミュージカル…。様々なことをさせていただきました。しかしそれだけではありません。道場でできた友達は一生ものです。学校も、学年も違う友達ができ、人間関係が広がります。道場でしかできないことがある、道場でしか会えない人がいる。私は道場生であることを誇りに思います。

協力者一覧

地球市民の会　１～３月のご支援の皆様!!（本当に有難うございます）

正　会　員

土井　敏弘
中村　清美
古川　昌宏
岩崎　正
百生　詩緒子
本村　満江
宮地　信文
牧瀬　弓子
福井　丈一郎
畑　恵子
野口　翔平
西田　一喜
徳光　清孝
堤　加奈子
高柳　かほる
篠原　裕一
佐々木　律子
小松　敏正
古賀　智津子
古賀　友大
北原　壽豊
藤瀬　伸恵
岩永　清邦
大野　博之
戸田　玲子
大島　泰輔

購　読　会　員

浦田　利奈

学　生　会　員

樋口　七菜
古賀　慈猛

維　持　会　員

太田　記代子
古賀　洋子

タイ ボーゲウ校

山下　陽子
福井　丈一郎
眞崎　健次郎
北原　壽豊
小園　択馬
山田　房子
平岩　佳名子
松瀬　直美
寶泉　正美
吉田　純子
納江　幸利
西村　賢二
愛野　良治
石川　祥子
池田　サチ子
田中　亜矢
亀井　一恵
稲葉　田鶴子
吉井　学
松林　久美子
寺戸　純子
戸田　玲子
吉田　史郎
江口　はる美

タイ クーキャオ高校

矢新　教子
江口　恵子
松林　久美子
円城寺　久好
森田　由香
的野　直喜
納江　幸利
古賀　大之
江頭　泰子
松枝　和代
北村　尚道
千住　友二
小松　重輝
佐々木　佳寿子
野内　直穂美
森永　勝馬
大塚　寿美雄
内山　治郎
大野　博之
西山　峰次
西山　峰次
祓川　清美
加藤　由紀子

タイ クーキャオ中学

武藤　鼓
南里　玲子
円城寺　久好
大島　佐江子
田久保　克明
岩永　公代
福本　淑子
福井　丈一郎
倉富　博美
小園　択馬
松瀬　直美
的野　直喜
納江　幸利
前田　綾子
徳永　千恵
秦　智美
深川　明子
愛野　良治
山下　雄司
江頭　泰子
阿部　礼子
江口　典子
千住　泉
別頭　照代
中村　志津香
池田　サチ子
本弓　康澄
佐藤　基子
平野　朋子
平川　恵里
浦郷　めぐみ
板垣　道代
木下　博和
野内　直穂美
中島　文子
山口　則子
馬場　龍之介
吉田　じゅんこ
原田　典子
森永　勝馬
馬場　佐和子
宮地　信文
内山　治郎
彌富　和枝
土井　敏弘
高柳　俊光
徳永　文武
七田　聡子

シショダヤ奨学金

矢新　教子

ミャンマー教育基金

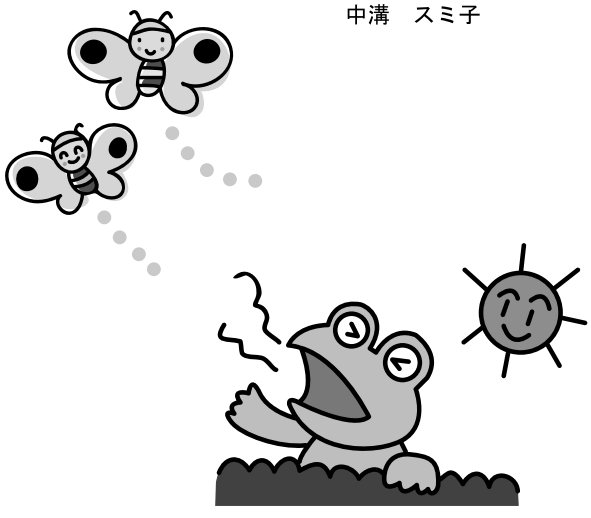
祓川　清美

寄　付　金

国際協力NGOセンター

切手・書き損じはがき

今村　京市
熊谷　昭二
東京海上日動火災(株)
宮崎　照子
人形の家　聖心房
七田　聡子
井上　祥代
笠田　誠
光岡内科消化器科医院
三井生命保険株式会社
白井　空
中島　康子
徳島建設
株式会社　副島金物
斉藤　トシ
唐澤　利夫
佐賀銀行
鍋島小学校
真如苑　佐賀支部
渡邉　康之
的野　生子
石塚　雅子
鍋島幼稚園
真島
中溝　スミ子



※順不同で掲載させていただいております。
※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

4～7月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場
★は夢の学校 の行事です

●「大和なでしこ」の辺境生活奮闘報告会

4月15日(木)

場　所　循誘公民館(佐賀市東佐賀町12-2)
時　間　19:00～20:30
参加費　無料

我らがミャンマー現地事業責任者・柴田京子。ミャンマー人男性と結婚し、日本から遠く離れた辺境の町に住み、息子・娘の二人の子どもを育てながら、さわやかに、したたかに生きる日本女性の現地報告です。
今回は軽く、楽しく、難しくないお話です。

●第９回通常総会＆記念シンポジウム

５月16日(日)

今年の総会の記念シンポジウムはスペシャルゲストを迎えてのビッグ企画を企画中です！
当会会員の某大臣に出演交渉中！テーマは「地域のことは自分で決める！生活の主人公は私たちだ！」。少し難しく言うと「地域主権」。詳細は改めてご案内いたします！スケジュール帳に「地球市民の会総会」と赤字で記入し、日程を押さえておいてください！

場　所　佐賀県立男女共同参画センター(アバンセ)
　　佐賀県佐賀市天神三丁目2-11　TEL0952-26-0011
時　間　第９回通常総会　14:00～15:00
　　シンポジウム　15:15～17:45
　　(企画進行中です。まだ決定ではありません)
　　懇親会　18:30～20:30
参加費　総会・シンポジウム　無料
　　懇親会　4,000円予定

★2010年夢の学校タマテ箱
4月開始

★2010年ぼうけんタマテ箱
5月開始

スタッフのひとこと「私を変えたこの人からのこの一言」

よくよく考えると全ての人にあてはまる不思議なことがあります。「なぜ、私は、ここで、こんなことをしているのだろう？」別の生き方だってあったはず。なのに、気がつけば、今、ここで、これをしている。結局は自分で決めて、ここにいるのですが…振り返ってみると、あの時、あの人から(会って、本で、映画で、音楽で、テレビで、など)この一言を聞いてしまった、または見てしまった、感じてしまったのが始まりだったなぁ、と思えるはずです。今号はそんな一言を集めました。

地球市民の会

大野　博之　古賀先生との衝撃の一言は「お前は今まで何のために勉強していたのか？」との問いで、それにより地球市民の会と16年も付き合うこととなりましたが、その前に高校時代に国語の模試で出題された亀井勝一郎の「人生論」のなかで「邂逅は第２の誕生日である」という文章を見つけたときです。試験の解答よりも第２の誕生日について考え込んで試験の結果は惨憺たるものでしたが、それが古賀先生の一言を「ずどん」と受け止める素地になっていたのでしょう。

戸田　玲子　マザーテレサの一言。『愛の反対は、憎しみでは無く、無関心であることです。』私は、この言葉に出会った時、愛ある人間でいたいと思いました。満腹が味わえない子ども、学校へ行けない子ども、親のいない子ども…出会ってしまった以上、無関心ではいられない…だからここにいるのだと思います。

髙柳かほる　「成せばなる成さねばならぬ何事も。成さぬは人が成さぬからなり」小学校５、６年生の時の担任の先生の言葉。小学生ながらにも、妙に納得して、将来に大きな野望を持っていた一番の時期でした。その後もずっとその気持ちを持ち続けていたら今頃は・・・。その夢を子どもに託して・・・

岩永　清邦　中国人に教えてもらったこと「入郷随郷」(郷に入っては郷に従え)。中国にいた当初は、自分の意見や考えを押し通そうとしていた時でもあり、その言葉を教えてもらってハッとしました。そういう時は、人間関係もうまくいかず、もちろん活動の進展もなかったです。それからは、常にその意識をもち、そこの住民と同じような空気感をもてるように、とにかくまずは何でも受け入れてみよう！という意識の転換ができました。

藤瀬　伸恵　「大学は、大学に行きたくても行けなかった人のためにある。」大学時代に聞いた言葉。初めはその意味がピンときませんでした。でも、フィリピンを訪れゴミを拾って生活する少年達に出会って、私は答えを見つけました。この子たちのように、勉強したくてもできない人のために私は勉強しよう！それから、国際協力を目指す私の旅は始まり、今やTPAに流れ着きました。あとは母の「結婚までに好きなことやってしまいなさい」が転職へ背中を押しました。

鈴木亜香里　大学時代の恩師に言われた一言。「20代は自分のやりたいことをするための準備期間。30歳になったときに、スタートラインに立てればいいんだよ」。就職イコール「一生同じ会社に勤めること」と思っていた私は、その言葉がなかったら、転職してTPAに来ることもなかったかもしれません。「やっちゃいけないことなんてほとんどないし、やってやれないこともめったにないんだから！」これも恩師の言葉。30歳まであと5年、その頃私はどんなスタートラインに立っているんだろう。

西村　尚子　故古賀会長からの一言でした。事務局長になった時に、「思いっきりやりなさい。責任は私がとるから。」この一言で、私は頑張ることができました。

貝通丸直子　「自分で正しいと思った意見だけ聞けばいい、みんなセンスはいいのだから。」と、高校の時、作品を良いものにするため作品(デザイン画)の添削を、いろんなデザインの先生Ｉにお願いしたのですが、困ったことに先生によって言われることが違う…。どれを信じていいのかわからず、混乱していたところ、そんな生徒を毎年見ていた実習助手の先生から言われました。それから、困る回数が減り、「わがまま」になりました。

山際　純忠　東京でのグローバルキャリアセミナーに参加した際、起業したり学生組織をつくって国際協力活動に取り組む同年代の学生の積極さに圧倒されたのですが、その時マイナビの高橋厚子さんに言われた一言「できるかな？じゃない、できるんです。やるかやらないかはあなた次第」成果とは何か特別な能力に対するものではなく、挑戦しようとする少しの勇気によるのだと感じました。この言葉はその後の学生生活の原動力になっています。

古賀英語道場・空手道場

古賀　洋子　私にとってはマジで強烈なひとことです。15～6年前に佐藤会長から。「洋子さん、人のせいにしてはいけないよ。ものごとの結果は全部自分のせいですよ。」文字通り頭をガーンと殴られた思いがしたのを鮮明に覚えています。そしてもうひと言は息子から「お母さんは、ちゃんと向き合うということをしないといけないと思う。」２回目のガーンでした。以上のふた言は、いつも心の宝箱にしまっています。

山下　春美　「はるみは、IQは、なかばってん、愛嬌はある」　武夫先生の素晴らしい一言は実に的を得て、その後のプレッシャーの無い人生の礎になっております。

古賀　大之　この世に生まれて37年・・・。恐らく沢山の方達のありがたい言葉で今の私があるのだと思うのですが、いざ、思い出してみると思い出せない・・・、という何ともありがたみのない自分にガッカリです。ただ一つ。空手の指導中に武夫先生から常に言われていた『力ばぬけ！！』が今の生きかたの基本になっています。何事も、力を抜けば上手くいく！！空手も人生も・・・。なんとなぁく・・・が一番です！！

青柳　達也　古賀武夫先生に出会ったのは30年前でした。あれからずっと教えられた「英語を道具として使え！」は僕の心の中にいつでも響いています。英語を日本語同様に使えるようになったのは、きっとこの言葉があったからでしょう。英語を使えることで、チャンスが広がりグローバルな生き方をしようと思うようになりました。そして、世界に出ていったことで、日本のこともっと考えるようになりました。あの言葉が「英語を勉強しろ！」ではなかったのが良かったのでしょうね…、きっと。

夢の学校をつくる会

吉村　薫　その都度、いろいろなことばに影響を受ける私にとって一言といわれても・・・？ですが、何事も続けることができない私に亡き主人が「継続は力なり」と言ったことばかな。時々思い出しては反省！！

相良　伸武　もうちょっとで人生40年、これまでたくさんの友人、知人、先輩方にたくさんの言葉を頂き、支えられ、今の自分があるのだと実感し、本当に感謝しています。結婚して5年、妻のつぶやきは、そんな私をたった数年で良くも悪くも変えたのでありました。

地球市民ネットワーク

■北海道地球市民の会
〒061-3214　北海道石狩市花川北4条2-197
会長／阿部功　事務局長／新保知博
TEL・FAX：0133－74－1296

■地球市民の会ふくしま
〒963-8681　福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1
㈱石黒
会長／事務局担当　石黒秀司
TEL：024－959－6426
FAX：024－959－6577

■地球市民の会東京
〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長／有澤正典　事務局長／佐藤敏行
TEL：03－3662－0331
FAX：03－3662－0400
E-Mail：arisawa@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ
〒231-0821　神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長／近田真知子　事務局担当／伊吾田善行
TEL・FAX：045－622－9661
E-Mail：port@tpak.org

■地球市民の会ぎふ
〒501-6241　岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長／森幹治　事務局担当／平井八重子
TEL：058－391－5415
FAX：058－391－8600

■地球市民みえの会
〒514-0027　三重県津市大門7-15津センターパレス3F
津市市民活動センター内
会長／伊藤洋之　事務局担当／秋葉幸信
TEL：059－226－5700
FAX：059－224－8911
E-Mail：miemiemiemie21@hotmail.com

■地球市民の会京都
〒605-0873　京都市東山区下島町484
会長／宮川尚子　事務局担当／西田一貴

■神ノ戸有頂天倶楽部
〒657-0045　神戸市灘区下河原通り3丁目4-3
会長／松元隆司　事務局担当／大西陽治

■愛媛地球市民の会
〒799-0712　愛媛県四国中央市土居町
入野859-1
会長／森高康行　事務局担当／丹生谷宗久

■北九州地球市民の会
〒802-0006　福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長／河野一郎　事務局担当／大山研児
TEL：093－521－8181
FAX：093－551－2296

■地球市民の会福岡
〒814-0164　福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
㈱増屋内
会長／増田誠司　事務局担当／西村和寿
TEL：092－801－5888
FAX：092－801－5789

■（特活）コミネット協会
〒861-8039　熊本市長嶺南2丁目5-31
会長／池永憲真　事務局担当／富田、田中
TEL・FAX：096－387－7139

■古賀英語・空手道場
〒840-0822　佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952－25－2295
FAX：0952－26－4922

■夢の学校をつくる会
〒840-0822　佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952－22－6262
FAX：0952－26－4922

ネットワーク・テラ 春号 VOL.138
発　　行／
特定非営利活動法人　地球市民の会
〒840-0822
佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ：http://tpa.nk-i.net
E-mail：office@tpa.nk-i.net
TEL：0952-24-3334
FAX：0952-26-4922
発 行 日／2010年4月10日
発 行 人／佐藤昭二
編 集 人／地球市民の会 事務局
印　　刷／㈱サガプリンティング
再生紙を使用し、環境に優しい水なし印刷で製作しています。